

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

～中国・四国・九州・沖縄地方～

【準備型】

採択年度 営農類型	米麦等	野菜等	果樹
令和2年(2020年)		兵庫県 塚本 慶彦 さん	和歌山県 中山 将誓 さん
令和元年(2019年)		沖縄県 平良 卓也 さん	福島県 宮崎 遥 さん
平成30年(2018年)		千葉県 後藤 貴一 さん 神奈川県 本城 一貴 さん 滋賀県 佐生 和輝 さん	
平成29年(2017年)		宮城県 柳渕 泰孝 さん 栃木県 児矢野 翔吾 さん 静岡県 水見 翔人 さん 新潟県 鈴木 美香 さん 岐阜県 匿名希望 さん	
平成28年(2016年)		三重県 平松 香歩里 さん 佐賀県 中島 康太 さん 大分県 匿名希望 さん	岡山県 岡本 和正 さん
平成27年(2015年)		岩手県 吉田 祐一郎 さん 高知県 都築 廣和 さん	広島県 西森 恒平 さん
平成26年(2014年)	※秋田県 久保井 優司 さん	※秋田県 久保井 優司 さん	青森県 相馬 亘 さん 愛媛県 神野 哲彰・さやか さん
平成24年(2012年)		大阪府 川崎 佑子 さん	

※ 複数の類型について研修

岡山県

岡本 和正 さん (39歳)

研修先：JA晴れの国岡山

研修内容：果樹（栽培実習、出荷・販売方法の習得等）

新規就農を志した経緯・背景

民間会社に技術職として就職、安定した生活を送っていたが、家建てるにあたり、かつて思い描いた農業、田舎暮らしへの憧れが思い起こされ、ぼんやりと就農を意識した。移住セミナーで倉敷市玉島のももに出会い、月に1回産地を訪問し、農家に触れる1年の後、就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・もも栽培の基本作業である、せん定、袋掛け、収穫、そして土壌改良、等を学びつつ、雑木林の伐採・伐根による開墾等園地造成、経営管理等、幅広く学ぶことに努めた。
- ・研修期間は、土日など休日を設定せず、更に受け入れ農家より早く園地に行き、受入農家の生活スタイルに合わせた研修に取り組んだ。
- ・地域コミュニティーをはじめ消防団や農業後継者クラブ等積極参加し、自身の目標所得(1000万)を言い続け、自分を印象づけることに努めた。

資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・農業機械、小農具、資材等の購入費
- ・他産地や市場視察費



今後の取組

安定的に高品質なももが生産できるよう、受入農家から学んだ技術を実践していきたい。そしてそれを後進に伝えていきたい。

新規就農希望者と産地の架け橋になり、産地を盛り上げたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H29.1~30.12)

ももの栽培・集出荷等
農業全般

- ・農業機械の操作技術習得
- ・経営、肥料等農業経営に係る全般の座学研修受講

就農準備 (H29.1~30.12)

もも 105a(就農時)
(うち成園30%)

- ・桃部会の協力により農地を確保(賃借、開墾)
- ・普及員や役場のサポートで青年等就農計画を作成。

現在 (就農4年目)

もも 170a
(うち成園70%)

- ・経営開始型へ移行し、農業所得400万円を確保。
- ・桃部会役員等を務め、新規就農相談に対応。

今後の目標 (就農10年後)

秀品率、正品率の向上
天候に負けない安定生産

- ・繁忙期の人員を確保し、高品質果実を安定的に生産する。
- ・農業所得目標1000万円。

広島県

農業次世代人材投資資金(準備型)

にしもり
西森

こうへい
恒平

さん (32歳)

研修先：広島県果実農業協同組合連合会

研修内容：果樹(ぶどう栽培技術、経営 等)

新規就農を志した経緯・背景

家の庭で家庭菜園を始めたことから農業に興味をもち、美味しいものを作りたいと思っていた。親戚の紹介で広島県果実農業協同組合連合会沼隈農園の研修を知り、応募した。地元福山の名産に携わり、地域の活性化に貢献したい。

資金の活用例

生活費や小農具の購入



研修中に工夫したポイント

- ・研修1年目はぶどうの栽培作業をメインに、土壌管理や病虫害防除、農業機械の使用方法などの栽培管理の研修を行った。
- ・研修2年目には前年の作業に加え、営農計画を立て、経営を意識したぶどう栽培(特に品種構成や作型変更で必要とする人手や経費)を行った。
- ・研修中、ぶどうの苗木を袋状のポットで1年間育成し販売する大苗育苗を行い、生産者のニーズに貢献する活動を行った。
- ・産地内で、園芸組合の行事、共同作業へ参加し、地域に溶け込んだ。

今後の取組

ぶどうの栽培面積を増やすとともに、ぶどうの農閑期にできる他の品目を勉強し、経営規模を拡大したい。

就農に向けた推移と今後

研修(H27~29)

ぶどう栽培の研修
剪定から収穫・出荷までの作業全般

- ・平成27年に研修開始。
- ・営農基礎や病虫害防除の講義。
- ・共同防除や産地講習会に参加。

就農準備(H28~29)

営農計画を作成し、経営を意識したぶどう栽培

- ・園芸組合の組合長や農園長の助力で、26aの園地、作業場、倉庫などを確保。

現在(就農5年目)

ぶどう 47a

- ・老木を改植し、消費者のニーズに合った品種、土地の特性に合わせた品種の選定、育成。

今後の目標(就農6年目以降)

ぶどう 70a

- ・ぶどうだけでなく、他品目の勉強、栽培を行い、経営規模を拡大したい。

愛媛県

神野 哲彰(44歳) さやか(38歳) さん

研修先: JAえひめ中央
研修内容: 果樹(JAほ場・農家研修 等)

新規就農を志した経緯・背景

夫婦ともに他産業に従事していたが、妻の育休明けのタイミングで、自分たち夫婦が経営者となり、どこまでできるのか挑戦したい気持ちと何より夫婦が同じ仕事に楽しみながら従事できる思いから、えひめ中央農協の準備型第1期生として応募し研修を開始した。

研修中に工夫したポイント

- ・将来の果樹を主とした営農計画を考える時に、就農後の新たな挑戦の成功には未収益期間の所得確保が必要と考え、積極的に研修品目を追加し就農後の知識・技術不足を補った。
- ・JAの研修圃場だけでなく農家研修を行ったことでより実践的で、先輩農家の声を聞きながら研修が行えた。
- ・夫婦で研修を行えたことで、研修を通じて将来の営農計画を常に話しあえたことや就農に向けてJA、市、機構等の関係機関が一体となってサポートしていただいたことが非常に良かった。

資金の活用例

生活費



今後の取組

経営規模を現状維持したまま、経営の合理化や無駄を省きながら所得の向上を目指す。

新規参入者として農業に参入する厳しさを知っている一方、農業の素晴らしさも分かるため、後輩となる次世代の農業経営者を目指す者を自ら支援していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修(H26.9~28.8)

果樹・野菜の栽培技術
経営管理

- ・平成26年9月に研修開始
- ・就農時の営農類型に併せて研修品目を追加
- ・生活も夫婦で役割分担

就農準備(H28.9~28.12)

関係機関からのサポートを受け就農開始。

- ・研修先のJAえひめ中央の斡旋で、農地中間管理機構を通して利用権設定
- ・機械施設もJAから貸借

現在(就農6年目)

施設紅まどんな30a
はれひめ65a
施設甘平10a、みかん12a
きゅうり7a
花木33a

- ・中古資材でハウスを自力施工。

今後の目標(就農10年後)

施設紅まどんな30a
はれひめ65a
施設甘平10a、みかん12a
きゅうり7a

- ・経営規模は現状維持し所得の向上を目指す。
- ・後輩となる新規就農者を自ら支援していく。

都築 廣和 さん (43歳)

研修先：高知県農業担い手育成センター
研修内容：野菜（座学、栽培実習 等）

新規就農を志した経緯・背景

実家が農業をやっていたことや、前職の運送業で野菜を扱っていたことから、農業に親近感を持っていた。仕事を通じて出会った人たちから話を聞くうちに農業を行うことに魅力を感じ、就農を決意した。

資金の活用例

- ・就農準備や就農開始直後の運転資金



研修中に工夫したポイント

- ・研修期間中も、就農に対する強い意欲を持ち、将来の所得目標を意識して研修に臨み、就農する品目の検討を行った。
- ・研修受入先の指導農業士の助力を得て、農地を確保した。
- ・積極的に地元農業者と交流し、地域とのつながりを築いた。

今後の取組

- ・コスト管理を意識した経営を展開し、所得の安定化を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H27～28）

高知県農業担い手育成センター、指導農業士の元での研修

- ・平成27年に研修開始。
- ・野菜全般における病害虫、施設園芸における栽培技術等の知識と実務、簿記記帳等の研修を実施。

就農（H28～H30）

施設シットウ12a
(ハウス1棟)

- ・県単事業でハウスを新設。
- ・妻と共同で農業経営を開始。
- ・総合的病害虫管理技術の実施、環境制御技術の導入により、高収量を目指した。

H31～現在（就農7年目）

施設シットウ17.8a
(ハウス1棟)

- ・県単事業で既存ハウスを増設。
- ・環境制御技術等を駆使し、管内トップレベルの収量を記録。

今後の目標（就農10年後）

施設シットウ17.8a
(ハウス1棟)

- ・雇用者の人材育成や農業機械の定期的なメンテナンスを行うなどし、合理的なコスト管理を考えた経営の展開を目指す。

中島 康太 さん (33歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜（栽培技術・農業経営全般）

新規就農を志した経緯・背景

高校卒業後、農業法人就職した。水田経営の基礎的農業技術をそこで学んだ。自身で農業経営に取り組みたいと、アスパラガスの先進技術を学び、施設園芸を中心に水田経営にも取り組むこととした。

研修中に工夫したポイント

- 初めての施設栽培（アスパラガス）であり、技術面や経営面での勉強となった。
- 先進農家は、JAアスパラガス部会でも特に後継者育成に実績のある農家であったことから、ポイントを押さえた指導をいただいた。
- アスパラガスは永年性の作物であり、地上部と地下部の増強を把握するのが難しい品目であるが、地上部の状況や地下部で動きを研修先でしっかり指導をいただいた。特に、施設内の温度管理や施肥・かん水のタイミングで収量品質に大きな差ができることを学んだ。

資金の活用例

生活費、就農準備費用
（研修から就農後の経営が安定するまで、資金面で支援があり助かった）



今後の取組

これまで経営の中心であったアスパラガスについてはより効率化・省力化を進めていきたい

管理委託が増えている水田についても、機械化による効率的な管理作業を進めていきたい

経営安定・雇用の確保面から新品目導入を検討したい

就農に向けた推移と今後

研修（H28～29）

- アスパラガス栽培の基礎管理（整枝・立茎・かん水施肥・温度管理技術等）
- 関係機関・部会等の支援で計画的な就農準を実施（圃場・施設機械等）

就農開始（H29）

- 施設予定地の土づくりを前年度実施（H28）
- 施設の導入（19a）

収穫1年目年のH30年度には県アスパラ共進会で新人賞を受賞。さらにR2年度は10a収量の部で最優秀賞を受賞。

現在（就農6年目）

- 法人格への移行
水稻管理受託の面的拡大
- 法人格に取得に伴い資産等の管理や経営改善の取組強化
- アスパラガス栽培の効率化・水稻の効率的な管理

今後の目標（就農5年後）

- 法人格のメリットを活かせる投資の拡大・人材の育成確保
水田での新たな経営品目の検討
- 周年雇用できる経営基盤
特に水田の利活用の検討
- アスパラガス生産を継続し雇用の安定確保を図る

匿名希望 さん (43歳)

研修先：杵築いちご学校

研修内容：野菜(座学、栽培実習、農業機械操作)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていた際に東京から大分へ異動。大分県の自然に触れ「一生続ける仕事」として農業経営を考える。自身の大好きないちごの研修施設を知り、入校を決意。

資金の活用例

運転資金、生活費



研修中に工夫したポイント

- ・研修途中でも自分が気になる手法は要望してカリキュラム・模擬経営へ追加し、あらゆる栽培方法を試験した。気になる産地(県外)を調べ、視察研修を要望、実施した。
- ・関係機関が企画する新規就農者向け研修会に参加
⇒品目が違っても「新規就農」という目標は一緒のため、共通の話題が多い
- ・就農前であったが、地域のいちご部会と交流を持ち、研修会等に参加
- ・関係機関から情報を収集し、就農時のハード事業内容を早めに整理

今後の取組

資材が高騰しているため規模拡大は考えていないが、いちごのシーズン以外で初期投資の少ない品目栽培に挑戦したい。

就農に向けた推移と今後

研修1年目(H28~H29)

- ・H28/9~研修開始
- ・農作業全般
- ・実地栽培研修、栽培、病虫害防除講習

研修2年目(H29~H30)
就農準備

- ・模擬経営研修
- ・就農準備
- ⇒就農地はいちご学校の紹介で決定。国庫事業を活用し施設を建設。研修終了後はすぐに就農

就農(H30~)

- ・24aの栽培面積でベリーツ、さがほのかを栽培、出荷
- ・R2に法人化
- ・R3の成績
単収5.1 t/10a
(部会平均 4.5 t/10a)

今後の目標(就農4年後)

- ・引き続き現在の栽培体系を続ける
- ・シーズン外で他品目を検討(とりあえず家庭菜園レベルから)

平良 卓也 さん(31歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜(栽培管理実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

前職に勤めながら自給自足のため家庭菜園を始めたことがきっかけで作物を育てる楽しさを知った。自身で作った野菜を多くの人に食べてもらいたいという気持ちから農家となる夢や目標を持ち、就農を志した。

研修中に工夫したポイント

- ・作物ごとの所得率と労働時間を調べ、高収益を得られるような作物の組み合わせを試行錯誤し、圃場で実践した。
- ・就農予定地の青年農業者の会に参加し、地域活動を通して農地取得のための情報収集を行った。
- ・積極的に先進農家の手伝いを行うことで効率良く管理する方法や、販路先の情報などマーケティングについて、より具体的な就農のイメージを持つことができた。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・授業料や資格取得費
- ・農機具や資材の購入費



今後の取組

多品目、高単価の作物との組み合わせにより高収益を確保し、六次産業化も含めた経営に取組む。また現在、特別栽培農産物の認定取得に向け積極的に取り組んでおり、環境保全型農業を目指すとともに、付加価値を付けた農作物の栽培とブランド化を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修(H31.4~R2.3)

露地や施設野菜に係る農作業全般。主にミニトマトやメロンの栽培管理。

- ・大型特殊免許など農業機械の免許取得。
- ・農薬や施肥管理について学ぶ。



就農1年目(R2.4~R3.6)

雇用就農。
農作業全般。(野菜や果樹の多品目、減農薬栽培)

- ・雇用就農先で減農薬栽培について学ぶ。
- ・農業委員会へ相談し独立・自営就農に向け農地(23a)を確保。



現在(就農2年目)

独立・自営就農。(R4.5)
オクラ(露地:23a)
かぼちゃ(露地:23a)

- ・規模拡大の予定。
- ・農業機械の取得。
- ・町の事業(農水産業担い手支援住宅整備事業)を活用する。



今後の目標(就農5年目)

露地:オクラ(25a)
施設:メロン(10a),ゴーヤ(10a),ミニトマト(10a)

- ・就農3年目以降徐々に規模拡大。事業を活用した施設を導入し露地野菜と並行して施設野菜にも取り組む。